

サトイモ疫病ってこんな病気！

～多発生する要因～

農林水産研究所

◎病原菌は、*Phytophthora colocasiae* (フィトフトラ コロカシエ)

◎さといも属の植物にしか感染しません。

◎本病は、6月末～7月の平均気温25℃以上で多雨（梅雨）に遭遇すると発生し始めます。

また、8月下旬～9月の多雨（秋雨）や台風通過に遭遇すると発生は急激に拡大します。

◎生育初期から多発すると株全体が枯れ込み大幅な減収や収穫皆無となります。

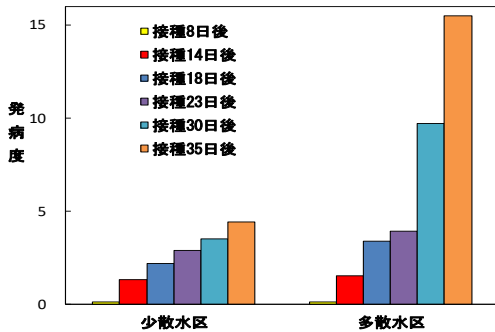
①多雨で発生が助長！

でも、ヒトの健康には影響ありません！

③葉が傷つくと発病しやすい！

多散水区は、少散水区に比べて、
発病程度が高く推移（＝発病しやすい）

→多雨時には、発生の拡大に注意！



有傷の葉



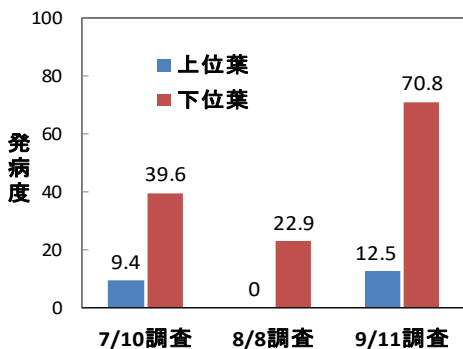
無傷の葉

「針で傷つけた有傷の葉」と「無傷の葉」に疫病菌を接種した結果、有傷の葉は明らかに発病しやすい

②下位葉は発病しやすい！

7月、8月、9月にリーフディスク法(※)で
発病検定した結果、上位葉に比べて、
下位葉は発病度が高い(＝発病しやすい)

※リーフディスク法:サトイモの葉片で疫病の
発病を可視化する手法



④発病後の進展に品種間差！

葉に針で傷つけて疫病菌を接種した結果、
発病後の病徴進展に品種間差がみられる

→初発に注視し、発生極初期からの防除対策！



愛媛農試V2号



媛かぐや



赤芽

接種8日後の病徴

愛媛県は、平成29年から令和元年の3年間、宮崎県、鹿児島県、西日本農業センター、岐阜大学と共同研究を行い、疫病の発生生態の解明と防除対策を確立し「サトイモ疫病対策マニュアル（2020年版）」を取りまとめました。

◎マニュアルは愛媛県ホームページからご覧になれます。

サトイモ疫病

検索

